

# 地域再生計画

## 1. 地域再生計画の名称

愛南町「活力ある水産業を目指すみなとづくり」計画

## 2. 地域再生計画の作成主体の名称

愛媛県、愛媛県南宇和郡愛南町

## 3. 地域再生計画の区域

愛媛県南宇和郡愛南町の区域の一部  
(御荘港、御荘漁港)

## 4. 地域再生計画の目標

愛南町は、北は四国山脈から分岐した篠山（標高 1,065m）を中心に森林地帯が広がり、そこから流れる二級河川、僧都川の流域に平野部（御荘・城辺地域の市街地）が開けている。南は黒潮躍る太平洋、西は穏やかな豊後水道に接しており、その海岸部は典型的なリアス式海岸を形成し、数々の景勝地を有する「足摺宇和海国立公園」に指定されている。

愛南町では、このような恵まれた自然環境を活かし、第一次産業の農業及び水産業を中心とした産業が盛んである。内陸部では、温暖な気候のもと、米作とともに、多様な地形を利用して甘夏柑や愛南ゴールド等のかんきつ栽培が、海岸部では、水産資源を活用した漁船漁業及び養殖漁業が行われている。

特に水産業においては、長きに亘り海面養殖生産額日本一を誇る愛媛県の中でも、豊かな天然資源と自然の恩恵を受ける全国屈指の良好な養殖漁場を有している。

町全体の取り組みとしては、平成 18 年に策定した愛南町総合計画において、目指すべき将来像を『ともにあゆみ育て創造するまち』とし、「人と自然が共生するまち」、「人と人が協働するまち」、「人と地域が共栄するまち」という基本理念のもと、「活力ある産業を育てるまちづくり」を進めている。

地元の特産物は、『愛なんブランド』と称して、「愛南びやびやかっお」（びやびやとは鮮度が非常に高く、身の引き締まった状態の魚に対して使う方言）の PR 活動を行ったり、「愛南大漁まつり」、「パールジュエリーデザインコンテスト」等の水産物にちなんだ各種イベントを行っている。

愛南町では、これらのイベント等を成功させるために不可欠な高鮮度の水産物を今後も提供するため、長期的な目標として HACCP 対応機能を有した港湾を目指しており、平成 20 年に策定した「水産・食料基地構想」で掲げている。その取り組み

として、漁業関係者の意識向上を図るために、「産地市場を一体とした漁港の衛生管理研修会」、「水産物ブランド化講演会」といった勉強会の開催、安全安心な水産物の生産を目的に海域での定期的な水質検査の実施や特産品のヒオウギ貝、かき等の成分検査を行っている。施設整備面では、衛生管理型市場の整備を計画している。

また、町民への食育普及促進を目的とした「ぎょしょく」教育を、生産者、関係団体、行政等が一体となって行っており、基幹産業である水産業の発展に努めている。

これらの取り組みを支えるうえで、町内の漁港が果たす役割は特に大きいものとなっており、「活力ある産業を育てるまちづくり」実現のためにも、漁業関係者にとって働きやすい環境を提供することは不可欠であるが、現在以下のような課題を抱えている。

町内の全漁獲量のうち約 1 割を占める赤水漁港水産市場は、係留施設の必要水深・延長不足が生じており、水揚時間帯の調整が必要となっている。また背後の荷捌用地が狭く、貯蔵施設等の老朽化が進んでいるため、円滑な競りや一時保管に苦慮している。アクセス面においても赤水漁港水産市場は、狭小なため大型車の乗り入れが制限される。また、輸送の中心ルートである国道 56 号に出るまでに一部、輸送車の離合困難な道路を通行する必要があり、輸送効率が悪い。このことが水産物の鮮度低下を招くと懸念されており、新たな漁業施設用地を確保することが求められている。

御荘漁港(銭坪地区)には、登録漁船 65 隻、利用漁船 77 隻が存在する(平成 19 年港勢による)が、漁港内には係留施設および外郭施設は整備されていない。そのため港内の漁船は現在、護岸前面とイカダに係留しており、出漁準備作業、係留作業等に伴う非効率化や、荒天時の漁船同士の接触といった安全性の阻害という課題を抱えている。背後に作業用地もないため、漁具の保管や漁網の清掃・修繕といった作業にも支障をきたしている状況であり、漁業環境・生活環境の改善が望まれている。

これらの課題を克服し、後述する具体的目標を達成するための取り組みとして御荘港、御荘漁港(銭坪地区)を整備する。



御荘港は、愛媛県の最南端に位置する港湾である。御荘湾奥に位置しているため天然の良港を呈しており港内は静穏である。御荘港に衛生管理型の水産市場を整備することにより、老朽化が著しい赤水漁港水産市場は安全面に配慮して閉鎖し、赤水漁港の水産市場を御荘港に移転することによって、十分な岸壁水深が確保される。また、隣接する製氷施設との連携により水揚機能が向上し、宇和海海域での水揚の新規参入が見込まれることから水揚量の増加が期待できる。また御荘港の背後には国道 56 号が通っており、アクセスが良好であるため主要な消費地である町内をはじめ、松山、高知方面への輸送にかかる時間が短縮されるため、高い鮮度が保たれる。なお御荘港は長期的な目標として、上述のように高度衛生管理のための HACCP 対応機能を有した港湾を目指しており、計画箇所の隣には最新の製氷施設も整備されているため、最終的には水揚～加工～出荷までを衛生的かつ効率的に処理することが可能となる。将来は背後に産直市を計画し、交流人口の拡大を予定している。

御荘漁港(銭坪地区)は現在、まき網、のほか、真珠、真珠母貝、かき等の養殖業が盛んであり、これらの漁船は主に赤水漁港水産市場を利用している。これまで係留施設・外郭施設・用地等が整備されていないが、荒天時でも波が進入せず港内静穏度が確保できる外郭施設、漁船の係留作業や漁具の陸揚、積込等の準備作業を迅速に行うことができる係留施設および背後の用地等を整備することにより漁家経費が軽減され、漁業経営が安定し漁村の生活環境が改善される。

### (目標 1) 水揚量の増加

御荘港に係留施設を整備することにより、十分な岸壁水深が確保され水揚機能が向上し、宇和海海域での水揚の新規参入が見込まれることから水揚量の増加が期待できる。

2,240 トン(直近 5 カ年平均) → 2,690 トン(平成 26 年度)

### (目標 2) 御荘漁港(銭坪地区)の係留施設充足率の向上

平成 21 年度 0% → 平成 26 年度 60%

(登録漁船 65 隻のうち 39 隻)

### (目標 3) 消費地への陸上輸送時間の短縮

赤水漁港から、国道沿いに立地する御荘港に水産市場をシフトすることで、アクセスが良好となり、消費地である町内をはじめ、松山、高知方面への輸送にかかる時間が短縮される。

松山方面への輸送：13 分短縮

高知方面への輸送：7 分短縮

#### (目標4) 陸上輸送距離短縮に伴う燃料費の削減

年間約12,500台(活魚車1,100台、4トントラック400台、1.5トントラック1,300台、軽トラック9,700台…赤水市場の実績、ヒアリングによる)の利用に対して、輸送距離短縮により経費である燃料費が軽減される。

年間1,500千円削減

### 5. 目標を達成するために行う事業

#### 5-1. 全体の概要

水産業が中心となって行われてきた愛南町のまちづくりにおいて、水産業の持続的な発展ならびにこれを題材としたPR活動、イベント開催は不可欠である。その基盤を整備することで地域の活性化につながる。

御荘港では、新たな流通システムの開発として高度衛生管理のためのHACCP対応施設の基礎となる係留施設等を整備する。

御荘漁港銭坪地区では、漁業活動の効率性、利便性を向上させるため近代的な係留施設、用地、道路を、また、漁船を安全に係留するため防波堤や水域施設を整備する。

その他、魅力あるまちにするため『愛なんブランド』の確立を目指すとともに、「愛南大漁まつり」等地域の特色を活かしたイベントの促進により、地域の活性化を図る。

#### 5-2. 法第5章の特別の措置を適用して行う事業

##### 港整備交付金を活用して行う事業

###### [施設の種類の事業主体]

- ・港湾施設 御荘港(愛媛県)
- ・漁港施設 御荘漁港<第1種漁港>(愛南町)

###### [整備量]

- ・港湾施設 係留施設、外郭施設、水域施設
  - ・漁港施設 係留施設、外郭施設、水域施設、輸送施設、漁港施設用地
- ※構造物の内訳は整備箇所図に示す。

###### [事業期間]

- ・港湾施設 平成22年度～平成26年度
- ・漁港施設 平成23年度～平成26年度

###### [事業費]

総事業費 750,000 千円（うち交付金 345,000 千円）

（内訳）港灣施設 300,000 千円（うち交付金 120,000 千円）

漁港施設 450,000 千円（うち交付金 225,000 千円）

※なお、上記事業の整備箇所等については、別添の整備箇所を示した図面による。

### 5-3. その他の事業

#### 5-3-1. 基本方針に基づく支援措置

該当なし

#### 5-3-2. 基本方針に掲げられた支援措置によらない独自の取組

##### ■愛南町水産・食料基地構想

国民の食生活を高めるとともに、世界の食料問題の解決を目指し、産学官が一体となって、種苗から養殖、加工、流通、販売まで、安全な食料を安定的に供給する一連の仕組みを構築することによって、世界に食料安全保障に貢献することを理念として、「養殖技術・流通システム革新」、「水圏環境保全」、「人材育成」を目指す。

##### ○養殖技術・流通システム革新

最先端の養殖技術・流通システムを世界に発信するとともに、研究の成果を地場産業に展開することによって、安定的な水産・食料の確保を図り、地域の水産業の発展に寄与する。

##### ○水圏環境保全

環境に負荷を与えない新しい養殖技術の開発や、水圏環境を保全、修復し、将来に亘り、安心、安全な水産・食料供給基地として持続可能な水産業の発展を目指す。

##### ○人材育成

最先端技術を産業振興に効果的に結び付けるため、優秀な人材を確保・育成する。

##### ■『愛なんブランド』の確立

愛南町では「自然あふれるふるさと」から生まれた特産物や、地域が伝承する文化や風習などを活かした『愛なんブランド』の確立を目指している。現在、道の駅や町営温泉施設に併設されている販売所及び都市部のアンテナショップ等での販売活動や PR 強化、インターネットを活用した情報交換や販路拡大を図るとともに、魅力ある商品づくり等を行政と地域が一体となって推進している。

・「愛南びやびやかっお」の PR

・「愛南のしずく(真珠の輝き)」コンペ等

##### ■愛南大漁まつり

リアス式海岸の御荘湾の干潟で明治時代から行われている「立て干し網」という伝統行事である。4月下旬から5月上旬の大潮の日に対岸までの約700mを網で仕切り、干潮時に逃げ場を失った魚をタマや手づかみでとる行事である。また、四国一のカツオの水揚げ量を誇る深浦港のカツオをアピールするため、カツオの即売やタタキの実演販売なども行われる。

#### ■パールジュエリーデザインコンテスト

パールジュエリーデザインコンテストは、平成9年度に愛南町（旧内海村）が、他に先駆けて始めたイベントである。平成21年度で13回を数える歴史あるイベントには国内外から数多くの作品が寄せられている。日本一の宇和海真珠の魅力と『かがやく真珠のふるさと・愛南』を広くPRし、愛南町のオリジナルブランド作品を世界に発信している。

#### ■ぎょしょく教育システムの構築

愛南町内で水揚される水産物の紹介をしながら、保育所、小中学校、公民館等で料理講習会や郷土料理の伝承を交えた食育「ぎょしょく」の普及推進を行っている。

### 6. 計画期間

平成22年度～26年度

### 7. 目標の達成状況に係る評価に関する事項

4. に示す地域再生計画の目標については、計画終了後に必要な調査を行い状況把握するとともに、漁業関係者も含めた愛南町関係部局で「地域再生計画評価会議」を開催し、達成状況の評価、改善すべき事項の検討等を行うこととする。

### 8. 地域再生計画の実施に関し当該地方公共団体が必要と認める事項

特になし。